慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	「慰め発話」の形式的特徴：文末表現を中心に
Sub Title	
Author	田中, 妙子(Tanaka, Taeko)
Publisher	慶應義塾大学日本語・ 日本文化教育センター
Publication year	2013
Jtitle	日本語と日本語教育 No.41 (2013. 3) ,p.31- 46
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	論文
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00189695-00000041-0031

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

慶應義塾大学　日本語・日本文化教育センター紀要
『日本語と日本語教育』41：31–46（2013.3）

「慰め発話」の形式的特徴

―文末表現を中心に―

田　中　妙　子

1.　研究の目的

本研究の目的は、会話における「慰め発話」、すなわち相手を慰めるという表現意図を持つ発話の形式的特徴をドラマシナリオの用例から分析し、口頭表現教育への応用を目指すということである。田中（2012）では、「慰め発話」をコミュニケーション上の方策という点から捉え、何をどのように表現することが相手を慰めるための方策になるのかという意味的な側面から考察した。しかし、教育への応用ということを考えると、意味的な側面からの指導だけでなく、言語形式の側面から典型的な表現や談話構造を指導するということも重要である。一部の発話行為、例えば依頼、勧誘、断りなどにおいては形式的特徴や談話構造が既に明らかにされ、教育にも広く応用されているが、慰めという発話行為については言語形式、あるいは談話構造としての特徴を指摘する研究が少ない。他者を慰めるという行為は言語、非言語の両面で多岐にわたるため、形式を網羅的にパターン化するというようなことは確かに不可能であろうが、発話の中に頻出する特徴的な言語形式を観察し、分類していくことは可能であると考える。本研究では「慰め発話」のように言語形式をパターン化することが困難な発話行為について、言語形式の面からどのようなアプローチが可能かを模索する。

2. 「慰め発話」に関する先行研究と日本語教科書での扱い

田中（2012）にまとめたように、従来、慰め発話に関する言語行為は、「励まし」とともに論じられることが多かった。両者を含めた範囲の研究には、関山（1998）、黒川（2001）、塩見・米澤（2008）、中野・正保（2011）などが挙げられる。関山（1998）はポライトネス理論の観点から、会話参加者間の心理的な距離や場面の改まり方の度合いといった変数がポライトネスストラテジーに影響を与えること、また性別がストラテジーの選択に影響を与えることを明らかにしている。黒川（2001）は関山（1998）の研究を踏まえて「励まし」表現のアンケート調査、およびロールプレイを行い、励ます側と励まされる側には心理状態のギャップが引き起こす認識の違いがあること、実際の発話場面での「励まし」行為の特徴などを明らかにしている。また、中野・正保（2011）では、言語学での研究成果を参考に、臨床心理学的な観点から「励まし」の言葉を捉えた研究を行っている。いずれも、慰めや励ましという発話行為における会話参加者間の心理や認識に注目した研究であるため、言語形式そのものへの言及は少ない。

日本語教育の立場からは、塩見・米澤（2008）がシナリオに見られる「慰め・励まし」の表現の様相を広く分析している。シナリオから採取した用例が多く示されているが、これも言語行動・非言語行動の型を分類することに目的があり、言語形式に注目したものではない。

一方、日本語教育の教科書では、岡崎ほか（1988）、中居ほか（2005）などがロールプレイの一環として慰めを扱っている。岡崎ほか（1988）では、慰めの表現について「決まった文の形はなく、場面に応じてさまざまな表現を使う（p. 88）」と述べられており、定型表現として「がっかりしないでください」「気を落とさないでください」など限られたものだけが挙げられている。中居ほか（2005）では「友達を慰める・励ます」という課が設けられており、以下のような慰め・励ましの表現の例が挙げられている。

相手の気持ちを受け止める

・そうなんだ。　・大変だったね。　・わかるよ、～（さん）の気持ち。　・ほんと。

慰める・励ます

・気にすることないよ。　・～ば分かってくれるよ。　・だれ（に）だってあるよ。　・大したことないよ。　・わざと～たんじゃないんだから。　・元気出して。　・わたし（僕）なんて、何回～か分からないよ。

既に慰めに関する研究成果がこうした教科書に応用されてはいるが、非常に限られたものであるため、形式的な面から更に整理をしていくことは教育への応用を考える上で意義のあることであると考えられる。

3. 「慰め発話」の定義

本稿では、「慰め発話」を「会話において、悲しみ・不安・不満・後悔など、何らかの負の感情を持っている相手に対し、その負の感情を和らげる、あるいは解消させることを目的として行う発話」と定義する。ただし、発話者と受信者が常に共通の認識を持っているとは限らないため、本稿ではドラマシナリオによる用例採取の条件を次のように規定する。

①ドラマの展開や発話から、登場人物（A）が悲しみ・不安・不満・後悔など、何らかの負の感情を持っていることが推測される。

②ドラマの展開や発話から、登場人物（B）が登場人物（A）の負の感情を認識し、好意的にそれを和らげよう、または解消させようとしていることが推測される。

つまり、受信者が負の感情を持っていることが明確で、発話者もそれを認識した上で受信者を慰めているという関係が成立している場合に「慰め発話」が成立したと考える。「慰め発話」の受信者がその発話をどのように受け止めるかは問題にしない。

4.　分析対象

ある一つの発話は、命題内容とモダリティを表す部分とから成る。本研究で焦点にするのは、相手を慰める際にどのような発話態度を言語化して示すかということであるため、後者のモダリティに関わる部分に注目するということになる。そのような観点から、分析対象として定型表現、文末表現、副詞、助詞、感動詞等が挙げられるが、本稿ではまず文末表現に注目して分析する。田中（2012）で分類した「慰め発話」の方策、すなわちどのような事柄を言語化することが慰めになり得るかということとも関連付けて考察したい。

5.　用例資料と記載方法

用例資料として、テレビドラマのシナリオを使用する。「慰め発話」として採取した用例は 361 例である。用例の出典は【　】内に略称とページ数を記し、稿末の「用例資料」に詳細を示す。用例中の注目すべき箇所には下線を引く。

複数の発話者が現れる用例については、話者交替の場所を「／」で区切り、発話者の名前を記す。また、状況や発話者同士の関係を理解しやすくするため、必要に応じて［　］内に筆者による解説を加える。

6.　分析

「慰め発話」に現れる文末表現を大きく次の 7 項目に分類し、以下にそれぞれの具体的な形式を整理する。

（1）　相手の行為を促すもの

（2）　相手の行為を制止するもの

（3）　自分の行為を申し出るもの

（4）　判断に関わるもの

（5）　相手に確認・同意を求めるもの

(6)　感情表出に関わるもの

6-1　相手の行為を促すもの

負の感情を持つ相手に対し、その感情を解消させるために何らかの行為を促す表現である。採取した表現は次表のとおりである。

文末表現	機能	用例数
意志形		4
命令形	指示	11
て形	指示	3
～てください	指示	1
～なさい	指示	3
～の（よ）	指示	1
～ばいい	勧め	4
～たらいい	勧め	3
～たらどうか	勧め	1
～ていい	勧め	1
～方がいい	助言	2
～ないと	助言	1
～なきゃ、～なけりゃ	必要	4
～しかない	限定	1

命令形、て形、「～てください」、「～なさい（よ）」は形としては相手に命令・指示を出すということになるが、いずれも相手にとってプラスになる行為を勧めるものである。性差、相手との親疎関係、上下関係などが表現選択に影響を与えている。

その他の表現については、それぞれ以下のような例がある。

〈指示〉

・［見合いに失敗した相手に］「じゃあね、元気出すのよ」【ビューティフル 171】

〈勧め〉

・「無理しないで、コツコツやればいいよ」【夏の 176】
・「もちろんよ。ここから学校へ通ったらいいわ」【火垂る 166】
・「お前には表具師としての腕があるのだ。早く婆婆に戻って頑張ったらどうだ」【さぶ 30】
・「何を言ってるの。おばさんに甘えていいのよ。お母さんと、ちゃんと約束したんだから」【火垂る 166】

〈助言〉

・「どうしてですか？　泣いた方がいいですよ。我慢するより泣いた方がいいです」【わたしたち 270】
・「南伊ちゃん……あんた、まだまだ恵まれてるほうだと思わんと」【海峡 162】

〈必要〉

・「そうですよ、お父さんに負けなかっただけでも良かったと思わなきゃ」【うぬぼれ 333】
・［家を出て行った娘について話している。］「ま、一人でなんとかやってれば、親はよしとしなけりゃ」【大丈夫 114】

〈限定〉

・「こういう時は、じっと我慢するしかないの。どんな嵐も、きっと過ぎ去るんだから。絶対に、大丈夫だから。（略）」【すいか 258】

6-2　相手の行為を制止するもの

負の感情を持つ相手が何らかの行為をすることを禁じたり止めたりする表現である。採取した表現は次表のとおりである。

文末表現	機能	用例数
～（スル）な	禁止	3
～ないで	禁止	2
～んじゃない	禁止	3
～たらあかん：方言（～たらいけない）	禁止	1
～ちゃだめだ	禁止	1
～もんじゃない	禁止	1

～てどうするのか	非難	1
～ないことだ	勧め	1
～ない方がいい	助言	2
～ことはない	不必要	8
～なくて（も）いい	不必要	4
～てもしょうがない、～てもしゃあない：方言	無意味	2

禁止の機能を持つ表現の例は以下のとおりである。禁止の表現は親疎関係や上下関係において使用が許される相手に対して用いられ、相手に強い調子で働きかけて慰めようとする姿勢が示される。

- 慎平「そんなことを気にするなよ、大樹」／大樹「……」／慎平「そんなことでイジイジしてて、どうするの」【男たち 116】
- ［退職する発話者を見送る同僚に］「そんな顔しないで。また時々、寄らせてもらうから」【不機嫌 248】
- ［見合いに失敗したことを相手の母親から聞いて］「うん、聞いたよぉ。気、落とすんじゃないよ」【ビューティフル 171】
- ［関西方言］清太「しーっ。泣いたらあかん」／久子「……」／清太「今から、ええもん、見せてやるからな」【火垂る 145】
- ［泣いている男の子に珍しい蝶を見せる。］南原「（略）（子供に差し出し）キミはラッキーな子だ／母親「どうもありがとうございます」／南原「（笑顔）だからもう、泣いちゃだめだぞ」【不機嫌 188】
- 絆「死ぬの私だったらよかったのかもね。そしたら、泣く人も少なくてすんだし、その方が効率がいいって言うの？」／基子「そんなこと言うもんじゃないです」【すいか 220】

非難の機能を持つ表現も、禁止の表現と同様、相手に強く働きかけることによって相手の負の感情を解消させようとして用いられている。

- 慎平「そんなことを気にするなよ、大樹」／大樹「……」／慎平「そんなことでイジイジしてて、どうするの」【男たち 116】

何かをすることが不必要であるということを示す「～ことはない」は、相手の行為が不必要であると述べることによって、その行為を止めさせるものである。全 8 例のうち 5 例は「そんなに」、1 例は「別に」と共起して

いる。また、「～ことはない」に先行する動詞のうち 7 例が「がっくりする」「落ち込む（2 例）」「悩む」「焦る」「気にする」「気を使う」という負の感情を表すもので、そのような感情を持つ必要はないという意味になっている。その他の 1 例は「そんなに頑張ることはない」と、相手の無理を労わるものである。

・「……でも、そんなに落ち込むことないよ。恋に悩むなんて人間だけなんだから」【不機嫌 190】
・「別にがっくりすることないじゃないか…お前だって、本気で見合いしたわけじゃないんだろう？」【男たち 97】

また、助言の機能を持つ「～ない方がいい」はいずれも「～ない方が」と文末が省略され、「あんまり」と共起している。

・「あんまり、自分を責めない方が」【合い言葉 252】

その他の表現については、それぞれ以下のような例がある。

〈勧め〉

・「まあ……焦らんことだよ、君ちゃん。7 年てのは、胸のつかえがとれるほど長くはないさ。ななちゃんにとっても、……あんたにとってもな」【七子 11】

〈不必要〉

・［泣きながら話している息子に母親が］「優くん、もういい……（と、優を抱き締める）……もう何も言わなくていいの……」【楽園の 194】

〈無意味〉

・［北海道方言。病気の母親に娘が］「焦っても、しょうがないからね。ずいぶん良くなったぁって、先生も言ってたっしょ」【六月 104】

6–3　自分の行為を申し出るもの

相手の負の感情を解消させるために何らかの自分の行為を申し出る表現である。採取した表現は次表のとおりである。

文末表現	機能	用例数
辞書形、ます形	宣言	4
～てあげる、～てやる	宣言	8

いずれも主語は一人称で、動詞の辞書形、またはます形（丁寧形）を使うことによって、自分の将来の行為を宣言するものである。宮崎ほか（2002）では、このような形式が持つ機能を「意志の宣言」と呼び、「『する』は本来意志を表す形式ではないが、話し手の未実現の意志的行為に言及する場合に意志の側面が前面に出ることがある。（p. 41）」と述べている。用例のうち 8 例は「～てあげる」「～てやる」というように授受表現を伴っている。いずれも関係の近い相手に対する発話である。また、「今から」「明日」「今度」「その時は」「いざとなれば」というような将来の時間を示す連用修飾成分や副詞「必ず」との共起が見られる。

- ［左遷されて落ち込んでいる夫に］「（略）私だっていざとなればパートだって何だってやるわよ。あなた一人に負担を負わせるつもりはありませんからね。大丈夫よ私たちは。ね、元気出して、パパ」【祖国 110】
- ［病気の母親を転院させることになったが、新しい病院では手術ができないかもしれないと心配している息子に対して医師が］その時はボクが迎えに行きます。でもね、曽我先生は切るよ。必ず、切ります」【天国 110】
- 「今度泣かせてあげる、私の胸で」【男たち 206】
- ［朝早く起きられないことを心配している相手に］「そんなこと大変でもなんでもない。気にしないで眠れ。おれが起こしてやるよ、明日」【男たち 51】

6-4　判断に関わるもの

判断に関わる表現は多岐にわたるが、ここでは大きく否定的な意味を持つかどうかで分ける。否定的な判断というのは、相手の認識を否定することによって慰めるという方策として用いられるため、「慰め発話」における働きが一般的な判断の表現とは異なるからである。

まず、一般的な判断に関わる表現は次表のとおりである。

文末表現	機能	用例数
～と思う	認識	6
～かもしれない	推量	5
～にきまっている	断定	2
～ってことは～ってことだ	解釈	4
辞書形、ます形	予測	13
～わけにはいかない	不可能	1
～だけだ	限定	1
～でいい	評価・満足	2

認識を表す「～と思う」は確信の強さを表す副詞「必ずや」「きっと」と共起するものが各1例ずつ見られた。また3例は「思うけどな」と、終助詞「けど」を加えることによって判断を婉曲化して伝える方法をとっている。

・［岩本は医師の判断によって安楽死した。別の患者が医師に対して］「ですけどね私は――。こんなことなんですが、――岩本さんはきっと先生に、本当に、感謝してらっしゃると思いますよ」【町42】

「～かもしれない」は推量によって自分の主張を和らげながら相手に伝えようという目的で用いられている。用例のうち2例は、「～かもしれない。でも、～」というように逆接の接続詞「でも」で始まる発話が後続する。いずれも自分の行為に非があることを認めつつ、その行為をする正当な理由があることを述べて相手を慰めるという談話展開である。

・［君江は他人の子を引き取って育てている。］君江「七子。……母さん、あんたにちょこっとだけ、辛い思いさせているかもしれない」／七子「……」／君江「でもね……あの子も……一生懸命なんだよ……あんたと私の、家族になりたくて」【七子25】

「～に決まっている」は強い確信を持った断定によって相手を安心させるという方策で用いられる。

・［息子が戦地にいる女性に対して夫が］「昇だって元気に決まってますよ。（略）」【さとう31】

「〜ってことは〜ってことだ」はある事柄に対する解釈を行ったり、ある帰結を導いたりする際に用いられるが、「慰め発話」の中では相手の抱える問題が特別なことではなく、一般的・普遍的な問題であるという見方を示すために機能する。

・［恋人同士。真琴が別の男性を傷つけたことを後悔している。］樋口「もう忘れろ」／真琴「……」／樋口「人を好きになるってことは、誰かを傷つけるってことなんだ」【今夜 276】

第三者や物事を主語とし、辞書形・ます形（丁寧形）を用いて予測を述べる発話は比較的多く見られた。将来起きることが期待される事柄を希望的予測として述べて相手を慰めるというものである。「きっと（4 例）」「絶対（2 例）」「必ず（1 例）」など、確信の強さを表す副詞と共起する。また、将来のことを述べるため、「すぐ」「もうすぐ」「もう少ししたら」「もうちょっとしたら」「もう少しで」というように時間を示す連用修飾成分とも共起している。

・［弘の父親が漁に出たまま帰らない。］純「おやじさん絶対帰ってきますよ」／弘「――」／純「あの人そんなヤワな人じゃないです」【北の 259】
・［恋愛にも仕事にも悩んでいる相手に］「（何か言ってあげたい一心で）二十六歳ってそういう時期だと思います。もうちょっとしたら、楽にいろんなことができるようになりますよ」【結婚 161】

その他の表現については、それぞれ以下のような例がある。

〈不可能〉

・［章次は自分の娘が、自殺したクラスメートの母親にホテルへ連れて行かれたことを心配している。］章次「あの調子で娘が責められたら、あることないことといわされて、今夜は眠れないんじゃないかと――」／元洋「それも経験よ」／章次「――」／元洋「人生、どうせ、いろんな思いをするんだし、なにもかも親がかばうわけにはいかないんだから」【本当 87】

〈限定〉

・［教師が別の同僚から八方美人で仕事の要領が悪いと批判される。それを聞い

た生徒が教師に対して］「先生は誰に対しても優しいだけですよ。仕事だって、真面目だから一つ一つ時間かかるだけで」【女王 233】

〈評価・満足〉

・［広島方言。売れない帽子を作っている職人に対し幼馴染の女性が］世津「その人達、兄ちゃんの帽子被って何んて言ってる？」／春平「……他のより、被りやすいいうて……」／世津「（ニッコリと）ほら。年に二十人でも三十人でも、兄ちゃんの帽子を分かってくれる人がいるんじゃない。それでいいじゃない！」【帽子 41】

次に、否定的な判断に関わる表現を次表に挙げる。

文末表現	機能	用例数
～じゃない	否定	8
～ことはない	否定	4
～でもなんでもない	強い否定	1
～でもない	一部否定	1
～わけがない	可能性否定	4
～はずがない	可能性否定	1
～ほどではない	比較	1

否定の機能を持つ文末表現はいずれもマイナスの意味を持つ語と結びつき、その意味を否定するという働きをしている。相手の負の感情の原因となっているマイナスの認識を「その認識は正しくない」と否定して慰める方策に関わっている。否定の文末表現の中では、単純に「～じゃない」と否定するものが比較的多い。それぞれの表現の例は以下のとおりである。

・「スミちゃん、嫉妬するのはね、恥じゃないわよ」【すいか 258】
・［佳代の娘が自殺した。娘のクラスメートのことについて、その父親に話している。］佳代「成績がよくて、お父さんを助けて、うちの子とは、正反対のお嬢さん」／（略）／章次「お嬢さんと正反対なんてことはありません」【本当 82】
・「男にお尻を触られてカリカリする年でもないでしょ」【男たち 66】
・［おきみと近所に住む秀弥の会話。］おきみ「だって、おっかさん榮太郎兄ちゃんしか可愛がらないもの昔から」／秀弥「ばかねえ、そんなわけないでしょ」【あかね 125】

・「分かってるわ。栄二さんがそんなことをする筈はないわ」【さぶ 28】
・［自信を失っているバイオリン製作者に対して専門家が］丸山「……自分が思ってる程じゃないさ」／昌鉉「……」／丸山「そんなに悪いバイオリンじゃない（略）こんな物、と思ったがね……うちに有るバイオリンの中じゃあ、一番いい音だ」【海峡 171】

6–5　相手に確認・同意を求めるもの

相手に対して自分自身の疑問や主張を投げかけ、相手の確認・同意を求める表現である。採取した表現は次表のとおりである。

文末表現	機能	用例数
～んじゃないか（上昇調）注	推測・確認	6
～じゃないか（上昇調）	推測・質問	2
～じゃないか（下降調）	主張	15
～でしょう（上昇調・下降調）	確信・確認	11

注）名詞述語文の場合、意味的には同じでも形式の面で「ん（の）」を取らない場合があるが、それも用例に含めている。

「～んじゃないか（上昇調）」は推測した何らかの事柄を相手に投げかけるもの、「～じゃないか（上昇調）」は否定疑問の形で何らかの疑問を相手に投げかけるもので、いずれもその投げかけによって相手の考えや気持ちを変えさせようとすることが慰めにつながる。

・［片思いの相手を怒らせた男性に対して友人が］「自分のためにあそこまで尽くしてくれたんだ。そん時カッとなっても、後から考えれば、悪い気はしないんじゃないか」【今夜 209】
・［真琴は恋人との関係に悩んで、耕介に相談している。］真琴「二人で暮らすのがイヤみたい」／耕介「考え過ぎじゃないですか」／真琴「たぶんね、彼、シャロンさんのことで懲りてるんだと思う」【今夜 287】

「～じゃないか（下降調）」は確認の形で相手に強く働きかけることにより自分の意見を主張するもので、用例数が比較的多い。15 例中 7 例は相手を肯定する発話の中で用いられているが、一方で「当り前じゃないか」「必要ないじゃないか」のようにやや批判的・否定的な内容で相手の行為

を制止しようとするものもある。

・［姑との関係に悩んでいる妻に対して夫が］「おばあちゃんは、君に感謝してるじゃないか」【黄落 92】
・［容姿に劣等感を抱いている少女に対して友人が］「やめろよ。そんなふうに思う必要ねえじゃん」【4TEEN59】

「～でしょう」も相手に確認を求める表現であるが、確信の度合いが強い。上昇調と下降調のものがあり、前者は問いかけの気持ちが強く、後者は確信していることを主張する気持ちが強いと考えられるが、シナリオのみからはイントネーションの違いが判断できないものもあるため、用例は両者を含めている。

・［教師の真矢が生徒の母親の章子に対して］真矢「（首振って）みんな、どうして分かってくれないんでしょう、一番大変なのはお母様だってことが……」／章子「ホントですよ」／真矢「和美さんだって、お母様がこんなに心配していることに気づいてないんでしょう？」／章子「もぉ、困ってるんです、昔から呑気で」【女王 253】

6-6　感情表出に関わるもの

終助詞的に働き、何らかの感情表出を行うものである。終助詞との関連についても検討する必要があるが、それについては稿を改める。

文末表現	機能	用例数
～ものだ	詠嘆・感慨	2
～だろうに（でしょうに）	遺憾	1
～ものか（もんか）	反対・否定	2

「～ものだ」は相手の行為やある事柄に対する感慨、「～だろうに」は実現しなかった事柄に対する遺憾の気持ちを表す。相手に対する共感を表出する方策に用いられる。一方、「～ものか」は強い反対や否定の気持ちを表すもので、負の感情を持っている相手の認識を強く否定・批判することが逆に慰めにつながると考えられる。

・［耕介は愛する女性のためにけんかをして殴られ、顔を腫らしている。行きつけの店の店長が耕介に］店長「たいしたもんだなあ」／耕介「……」／店長「これで『カサブランカ』のボギーを超えたな」【今夜 390】
・［エリは不治の病にかかっている。］吉沢「こんな若いコがねェ。気の毒になァ」／規子「もっと早く治療してれば、治ったでしょうに」／エリ「（首を振り）これがあたしの寿命、運命なんです」【長生き 68】
・［白石が同居している病気のエリに対して］白石「八度二分」／エリ「やだ。死にたくないよォ」／白石「ばか。熱がちょっと高いくらいで死ぬもんか。俺みたいな年寄りならともかく、エリはまだ若いんだから」【長生き 64】

7. おわりに

以上、「慰め発話」における文末表現の分類を試みた。予想されることではあったが、やはり「慰め発話」に現れる表現は多岐にわたり、単純なパターン化は難しい。しかし一方で、用例数の多い表現もいくつか見られるため、人間関係や状況に関する条件を設定した上でそれらを用いた口頭表現練習を行うことは可能であると思われる。本稿では文末表現のみを取り上げたが、「4. 分析の観点」で挙げたすべての分析対象を今後検討し、更にそれらを総合して談話展開の面での分析も行いたい。

用例資料

・【男たち】鎌田敏夫（1987）『男たちによろしく』立風書房.
・【今夜】三谷幸喜（1998）『今夜，宇宙の片隅で』フジテレビ出版.
・【うぬぼれ】宮藤官九郎（2010）『うぬぼれ刑事』角川書店.
・日本脚本家連盟『テレビドラマ代表作選集』（1998 年版～2010 年版）.
以下は論文内に例を記載したもの.【　】は略称.
（1998 年版）【町】倉本聰「町」／【黄落】寺内小春「黄落」.
（1999 年版）【大丈夫】山田太一「大丈夫です，友よ」／【結婚】野沢尚「結婚前夜」.
（2000 年版）【ビューティフル】北川悦吏子「ビューティフル ライフ」.
（2002 年版）【天国】松原敏春「天国まで百マイル」.
（2003 年版）【さぶ】竹山洋「SABU～さぶ～」／【夏の】伊藤康隆「夏の約束」／【北の】倉本聰「北の国から 2002 遺言」.
（2004 年版）【さとう】遊川和彦「さとうきび畑の唄」／【あかね】清水有生「あかね

空」／【楽園の】中園健司「楽園のつくりかた」／【すいか】木皿泉「すいか」.

（2005 年版）【七子】相良敦子「七子と七生」／【4TEEN】斉藤ひろし「4TEEN」／【六月】鄭義信「六月のさくら」／【海峡】池端俊策・神山由美子「海峡を渡るバイオリン」／【不機嫌】大森美香「不機嫌なジーン」.

（2006 年版）【祖国】山田洋次・平松恵美子・荒井雅樹「祖国」／【火垂る】井上由美子「火垂るの墓」／【女王】遊川和彦「女王の教室」.

（2008 年版）【わたしたち】坂元裕二「わたしたちの教科書」.

（2009 年版）【帽子】池端俊策「帽子」／【本当】山田太一「本当と嘘とテキーラ」.

（2010 年版）【長生き】佐伯俊道「長生き競争！」.

参 考 文 献

黒川直美（2001）「日本語母語話者による『励まし』行為の特徴」横浜「言語と人間」研究会 5 月例会研究報告. http://sekky.tripod.com/0105kurokawa.html

塩見式子・米澤昌子（2008）「『慰め・励まし』の様相―シナリオを例として―」『関西外国語大学留学生別科日本語教育論集』18 号.

関山健治（1998）「日本語の『慰め・激励』表現にみられる Politeness Strategy―話者の性別と社会変数による影響―」『白馬夏季言語学会論文集』第 9 号. http://sekky.tripod.com/97 hakupa.html

田中妙子（2012）「ドラマのシナリオに見られる『慰め発話』の諸相」『日本語と日本語教育』第 40 号. 慶應義塾大学日本語・日本文化教育センター.

中野友貴・正保春彦（2011）「励ましの言葉の受け取り方に関する一考察―発話群・発話期待群の比較から―」『茨城大学教育実践研究』30.

宮崎和人・安達太郎・野田春美・高梨信乃（2002）『新日本語文法選書 4　モダリティ』くろしお出版.

日本語教科書

岡崎志津子・小西正子・藤野篤子・松井治子（1988）『ロールプレイで学ぶ会話（2）こんなとき何と言いますか』凡人社.

中居順子・近藤扶美・鈴木真理子・小野恵久子・荒巻朋子・森井哲也（2005）『会話に挑戦！　中級前期からの日本語ロールプレイ』スリーエーネットワーク.